

環境力大賞受賞によせて：持続可能な社会への貢献を目指して

濱田 篤介 (はまだ とくすけ/株式会社浜田 代表取締役)

この度は、「環境力」大賞という栄誉ある賞をいただき、誠にありがとうございます。

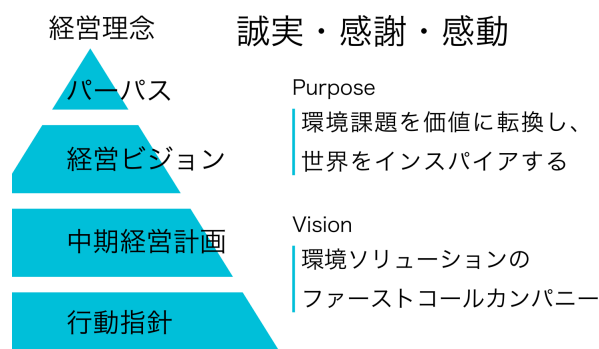
1993年、私は父が経営する役職員合わせて7名という小さな会社に入社しました。相場に左右される鉄スクラップ業の経営の厳しさを痛感し、事業の多角化を図るべく、産業廃棄物業界への参入を決意します。大阪府産業廃棄物協会（現・公益社団法人大阪府産業資源循環協会）に入会し、業界の知見を深め、業界のネットワークづくりを試みました。

当時、同協会の若手有志らと、環境文明21の創設者である加藤三郎顧問を講師に招き、勉強会を立ち上げました。加藤顧問からは、30年近く前にさまざまな薫陶を受け、その教えを胸に今日まで経営を行ってまいりました。今回の受賞は、加藤顧問が創設された認定NPO法人環境文明21において、弊社の「環境力」が評価されたものであり、深い感慨を覚えています。

弊社は、兄弟会社である浜田電気工業株式会社の鉄スクラップ部門が1973年に独立法人化し、一昨年50周年を迎えました。私が入社した1993年から産廃部門を立ち上げ、さまざまな産廃由来の資源リサイクルに取り組んでまいりました。今では、スクラップ部門よりも産廃部門の売上が大きくなり、スクラップ屋でも産廃屋でもない「環境ソリューション企業」と自称しております。

会社創立50周年を機に「パーパス」を定義し、行動指針・中期経営計画・経営ビジョンをまとめた「羅針盤」を全社員に配布しています。直近の決算では売上40億円を超え、

社員数も200人を超える規模となりました。加藤塾の頃から比べると、社員数も売上も10倍を超える規模です。



●持続可能な社会に向けた経営戦略

弊社では、「技術力」「情報力」「成長力」の3つの力を経営戦略の柱としています。

まずは、技術力について代表的なものを2つ紹介させていただきます。



●太陽光パネルリサイクル

2015年度のNEDOプロジェクトに参画し、2017年には東京都において日本初の太陽光パネルリサイクルの中間処理許可を取得しました。2020年には京都府に専用工場を建設し、2023年には割れパネル対応の装置を導入しました。これまでの実績は、リユースパネル販売が約17万枚、リサイクルパネルが約5万枚にのびります。

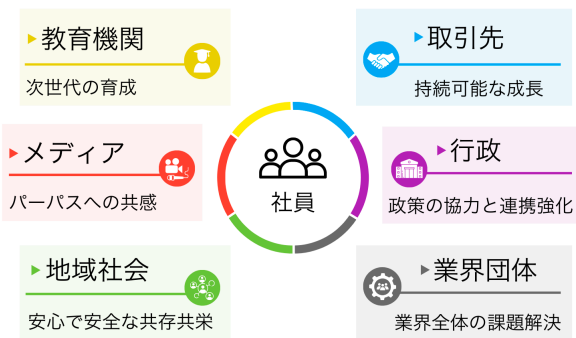
経営者「環境力」大賞を受賞して

●おむつリサイクル

2023年、環境省の補助金を得て京都府亀岡市で事業を開始しました。まだまだリサイクルに関する課題は多いですが、未利用資源ともいえる使用済みおむつの再資源化に挑戦しています。

以上、最先端のリサイクル技術を2つ紹介しましたが、本来弊社の根幹を支える技術は「丁寧に分別する」ことです。これにより顧客価値を生み出し、ここまで成長してきたと言っても過言ではありません。「面倒くさいことを価値に変える」という弊社のスローガンに基づき、大変地味ですが最も大切にしている技術力かもしれません。

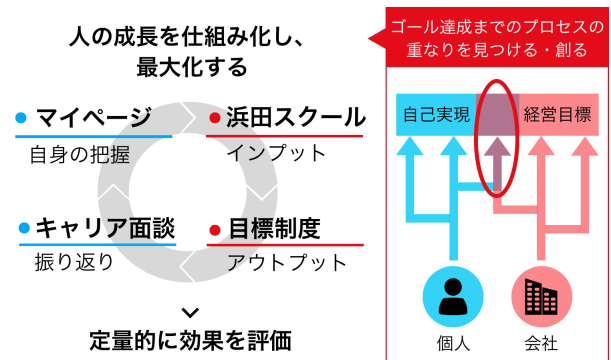
次に「情報力」ですが、「公正な評価制度」「キャリア支援制度」「経営報告書の発刊」などを中心に、さまざまなステークホルダーとのコミュニケーションを大切に、ブランディングにつなげています。



最後に「成長力」についてです。人の成長を仕組み化し、最大化する人的資本経営についてお話しします。

基幹システムにおいて、各社員は「マイページ」に自身の働きがいや、ライフプラン、キャリアプランなどを記入します。「自分にとってのウェルフェアは何か？」などを共有することにより、「働きやすさ」だけでなく

「働きがい」を両立させていきます。個々のキャリアイメージに即した知識や資格を取得するための浜田スクールや、挑戦を重んじる Challenge and Communication 制度による評価を行うなど、個人の自己実現のプロセスと会社が目標に向かうプロセスの重なりを見つけ、個人と会社が WIN-WIN となる成長の仕組みを作っています。



●浜田が描く未来

弊社には30年ビジョンがあります。環境ビジネスをコアとしたビジネスモデルを曼荼羅で表現したものです。



2020年に発表して以来、既にいくつかが実現しつつあり、「風呂敷も広げてみるもんだな！」と大変面白味を感じているところです。

この度、「環境力」大賞をいただいたことを機に、100年先の未来に向けて、さらに大きな夢を描き、挑戦を続けていきたいと思えます。